

発行  
英知大学  
兵庫県尼崎市若王寺  
2-18-1 (〒661)  
TEL (06)491-5083  
編集  
英知大学広報室

# 英 知 通 信



昭和62年11月15日

英 知 大 学

No.52

## 就任のふいふい

後援会長 菅野昌威



この度、若輩且つ非力な私が諸先輩を差し置き、後援会長の要職を引受けする事になりました。学校教育については、雲の上の出来事と思っておりましただけに、この大任を全う出来るかどうか危惧しておりますが、役員各位のご支援を仰ぎながら本学の発展と後援会の運営に微力ではございますが、努力いたす所存でございます。

## 第13回 英知大学後援会総会開催

去る六月二十日(土)午後二時から本学H40一教室で第十三回英知大学後援会総会が開催された。午前中の風雨も午後はやみ、出席者は約七十名で、大多数は兵庫・大阪・京都・奈良・和歌山などの近府県からであったが、中には大分・愛媛・島根・岡山県の遠方からの出席者もあった。福島会長の挨拶のあと、理事長代理として岸常務理事から、後援会創設の趣旨や昨今の本学経営、教育努力事項等の説明があり、続いて会長が議長となり、次のように議事が進められた。

### 昭和六十一年度決算報告

議長の名指により、書記が別掲の決算書に基づいて収支の各項目

後援会は、大学の教育方針に基づき、その事業を援助し、併せて会員相互の親睦を図る事を目的としております。我が国も戦後四十年を経て世界有数の経済大国に成長いたしました。今後は良識ある国際人の育成が必要とされており、本学もそれに対応する諸計画を学長先生を中心として検討しております。また子弟に対しては日々愛情のこもった真剣な態度で教育に当たっております。後援会と致しましても出来る限りのご支援を申し上げ、本学の発展にご協力致したく存じております。

どうか役員各位並びに会員の皆様方におかれましても大学並びに後援会に対し、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。

について説明した。助成金についてはワープロ、コンピュータ、エアコン、カウンセリングルーム改造、バックネット補修、アーチェリー防球ネット等に当てられた旨、説明された。

### 監査報告

山本監査から、証憑書類を監査した結果、経理処理は適正であるとの報告があり、決算報告並びに監査報告は共に満場一致で承認された。

### 役員改選

昭和六十二年年度の会長・副会長、監査についての理事会案が発表され、満場一致で承認された。なお常任理事及び理事は会則通り後日

会長 委嘱された。(役員名簿別掲)  
福島会長の離任挨拶に続き、菅野新会長が新役員を紹介し、協力依頼があった。

昭和六十二年度予算案審議  
書記が別掲の予算案について説明し、満場一致で承認された。  
感謝状並びに記念品の贈呈

菅野会長より福島前会長並びに志智監査に感謝状と記念品目録が贈呈され、会員一同から盛大な感謝の拍手が送られた。  
学長の挨拶と講話  
続いて約三十分間、井上学長の挨拶と講話があった。

懇親茶話会  
総会終了後、学生食堂で恒例の懇親茶話会が開催された。今年には十二名の教職員が出席し、父兄は各科学年別に分けられた八つのテーブルに、それぞれ二乃至三名の先生を囲んで着席し、子女の教育等について歓談した。

終始和やかなうちにも真剣さのたゞよう話し合いが続き、閉会の挨拶後先生との話しを続けている父兄も多かった。  
日本カトリック大学連盟

## 學術奨励賞受賞

奥村和滋助教授(教養課程)の学術論文「人間形成における空間と言語の意味」は、日本カトリック大学連盟において優秀な論文として高く評価され、去る七月二十一日、同連盟より学術奨励賞が本人に送られた。ここに同論文の概要を載せる事にする。

## 人間形成における空間と言語の意味

——ボルノウの希望の教育、その視座と根拠を問う——(概要)



不信の時代といわれる今日、人々には目に見える現象の背後に残忍で醜い真理の存在を認めようとしていない。人間の価値は最下位の形式に還元され、世界への信頼関係は破壊され、結びつき、真理の探究心は、嫌疑をかけ仮面を剥奪する疑わしい喜びへと墮落する。かかる状況にあって、生きる意義や希望へ向けての教育は果たして可能なのだろうか。現代の希望の哲学者O・F・ボルノウは、生を可能にする根拠を求め現代に新しい方向を与えるために、先ずは実存主義的な世界像や人間観との対決を試みて、その克服と補充に活路を求めている。何の支えもなく投げ出され不気味な世界にさらされた現代人の危機的状況の中で、実存主義は自らの死という非日常的な事態に対する先駆的な決意において、生をぎりぎりまで高めることの重要性を訴えている。それが「無」に面前しての不安の気分から真の自己への道を説くのに比して、ボルノウは肯定的な開かれた気分において「存在」との出会いの可能性を認め、新しい存在信頼の回復の道を探っている。本研究は、ボルノウ希望論の根本的視座を「すまい」と「かたり」という生の空間性と言語性にと認め、たうえで、人間形成にとって空間と言語とがどのような意味をもちうるかを問うたものである。

昭和 61 年度 英知大学後援会決算書 (自昭和 61 年 4 月 1 日 至昭和 62 年 3 月 31 日)

1. 収入の部

| 項目   | 予算額        | 決算額        | 増 減    | 備 考            |
|------|------------|------------|--------|----------------|
| 入会金  | 11,280,000 | 11,280,000 | 0      | 新入生 4 万円×282 人 |
| 会費   | 22,880,000 | 22,880,000 | 0      | 新入生 8 万円×286 人 |
| 雑収入  | 700,000    | 779,695    | 79,695 | 銀行利子、パーティ会費    |
| 繰越金  | 764,766    | 764,766    | 0      | 昭和 60 年度よりの繰越金 |
| 収入合計 | 35,624,766 | 35,704,461 | 79,695 |                |

2. 支出の部

| 項目   | 予算額        | 決算額        | 増減(→は予算より 減) | 備 考                  |
|------|------------|------------|--------------|----------------------|
| 助成金  | 33,000,000 | 33,000,000 | 0            | 英知大学への助成金            |
| 事業費  | 2,000,000  | 1,821,460  | (→) 178,540  | 総会茶話会、親睦パーティ費、クラブ奨励金 |
| 事務費  | 100,000    | 37,540     | (→) 62,460   | 通信費                  |
| 会議費  | 200,000    | 129,435    | (→) 70,565   | 役員会議費                |
| 慶弔費  | 100,000    | 34,300     | (→) 65,700   | 会員死去の際の弔電料等          |
| 雑費   | 50,000     | 400        | (→) 49,600   | 振込手数料                |
| 予備費  | 174,766    | 43,200     | (→) 131,566  | 退任役員記念品料             |
| 繰越金  |            | 638,126    | 638,126      | 昭和 62 年度への繰越金        |
| 支出合計 | 35,624,766 | 35,704,461 | 79,695       |                      |

3. 差引残高無

昭和 62 年度 英知大学後援会予算書 (自昭和 62 年 4 月 1 日 至昭和 63 年 3 月 31 日)

| 項目   | 予算額        | 備 考            |
|------|------------|----------------|
| 入会金  | 10,960,000 | 新入生 4 万円×274 人 |
| 会費   | 21,920,000 | 新入生 8 万円×274 人 |
| 雑収入  | 500,000    | 銀行利子、親睦パーティ会費  |
| 繰越金  | 638,126    | 昭和 61 年度よりの繰越金 |
| 収入合計 | 34,018,126 |                |

2. 支出の部

| 項目   | 予算額        | 備 考                  |
|------|------------|----------------------|
| 助成金  | 31,000,000 | 英知大学への助成金            |
| 事業費  | 2,300,000  | 総会茶話会、親睦パーティ費、クラブ奨励金 |
| 事務費  | 100,000    | 通信印刷費                |
| 会議費  | 200,000    | 役員会議費                |
| 慶弔費  | 100,000    | 会員死去の際の弔電料等          |
| 雑費   | 50,000     |                      |
| 予備費  | 268,126    |                      |
| 支出合計 | 34,018,126 |                      |

3. 差引残高無

人間の本来の空間関係は、実存主義のいう「投げ出されてあること」ではなく、「すまうこと」にある。それゆえに信頼と安らぎの場である「家」の空間が、生の希望の形而上学的な原点として、改めてその意義が確認されることになる。家という内なる空間をもつことは内と外との区別と緊張を生むことになるが、その両者の均衡と調和を求め努力において住まうことの意味が明らかになる。家に住まうこと、それは、つまりそこら大なる空間に担い支えられていくという包括的な信頼へのよすがでなければならぬ。かかる空間関係を精神的に先導するべき教育の観点に立つとき、「教育的雰囲気」が重要な課題となってくる。ここでは、幼い子どもを抱く被包感が、後に普遍的な空間信頼に導く火種として、健全な発達にとってかけがえのないものであることが強調されて

いる。また「言語の教育が人間教育の核心にある」というボルノウは、言葉と希望とのかわりをどのように見ているか。彼自身によつては主題化されずにあるこの問題について、本稿では、人間と言語と存在との三構造の視点から解明を試みる。ボルノウによれば、言語は現実のたんなる模写ではなく、現実を独特な仕方「分節」「解釈」「固定」させる力である。これは我々が世界や人生を理解し自己を形成するうえでその基礎となる、存在了解の地平をかたどりに出してくる。また、この地平は創造的な「対話」を通して支えられ深化される。対話の言葉に存在の真理が宿るからである。かくして人間は対話において存在と出会う。あるいは、人間と存在とはそもそも対話的な呼応の関係にあるといえる。言葉はこの原呼応の出来事に存立の根

拠をもつことになる。その意味では、言語教育が存在関係の回復の可能性を担うことを認めることができる。しかるに、生の空間性と言語性に基づくボルノウの希望が人生の希望をすべて包括するとは言いがたいと思われる。悪や死にともなう全人的な苦悩の体験は、生を信じ愛する分だけいっそう大きな悲哀をもたらすのではないか。悲しみは愛ゆえの働である。永遠性の希求が愛ならば、永遠であるべきはずのものが現にはかないことに悲劇がある。だから死を悼む心とは、この無常の時間がどこかで終わり、無情に散った過去の意味がいつか永遠の中に甦らんことを祈る誠実な心にはかならない。愛の人からみれば、世界は未完のままである。世界はさらに創造的に完成されねばならず、また、されうるものであろう。かかる終末論的な希望

新共同訳聖書の発行にあたって

この九月に新共同訳聖書が発行された。その翻訳・編集のために長年働いて来られた本学教授 和田幹男先生を訪ね、島力事務局長にその苦心談などについてインタビューしていただきました。

Q 立派な新共同訳聖書が完成し、おめでとうございます。

A ありがとうございます。

Q 今度の「共同」というのは、どういう意味ですか。カトリックとプロテスタントは従来別々に聖書を訳出・発行してこられたが、それを共同して統一したということですか。

A そういうことです。日本における聖書は、明治初期からプロテスタントの日本聖書協会が中心になって発行されてきました。その聖書はキリスト教徒のみならず、作家や一般の人々にも広く読まれ、キリスト教用語もたくさんそこから取られていきます。カトリックはそれからずっと遅れて聖書を訳出・発行しました。新約全書の完成は、明治四十三年です。しかも原典が同じでも、用語の訳が異つていたりして、キリスト教徒以外の方々に迷惑をおかけしてきました。昭和三十七年から四年間、ローマ・トリックの全世界の司教

が集まり、教会のあり方を見直す第二バチカン公会議が開かれましたが、そのとき同じキリスト教の信仰をもつものは相互にもっと協力しなければならぬと反省されました。この機運の中で、日本においてもカトリックとプロテスタントが協力して、聖書を翻訳・出版する計画が立てられました。プロテスタントも丁度その頃、従来の聖書を改訂する必要性を感じておりました。カトリックもプロテスタントと同じキリストの信仰をもつものですが、それぞれ独自の伝統を有し、用語の統一など歩み寄りのためには、何回も対話をくりかえさなければなりません。

Q 日本だけでなく、外国でも共同訳はなされていきますか。

A 各国でカトリックとプロテスタントの関係は、比率や歴史が異なりますが、第二バチカン公会議のあと、あちこちで共同訳がなされています。

Q その場合、原典は何になるのですか。それは外国の場合も同じものですか。

A 同じです。聖書は旧約聖書と新約聖書に分けられ、旧約聖書はヘブライ語、新約聖書はギリシア語で書かれています。その原典といつてもオリジナルは失われていて、写本が残っているのです。その写本はいくつかあって、その中でオリジナルに最も近いとされる本文が、どの国の翻訳聖書でも底本として用いられています。旧約聖書は西暦十世紀の写本、新約聖書は四、五世紀の写本が用いられます。この点で、カトリックもプロテスタントもコンセンサスがあるのです。ですから、同じ底本を訳出し、同じ信仰をもつことを確

かめることができるのです。そのために、特別な教義のめがねで原文を解釈して訳すことは互いに控えなければなりません。ただし、聖書翻訳者は主として西洋古典語の学者で、教義よりも原文の意味を読み取る訓練を受けたものばかりでした。

Q 先生が担当されたのは旧約聖書だろうと思いますが、旧約のどの部分を担当されたのですか。

A これは発表しないことになっていました。実際に共同訳聖書は各担当者が翻訳したものを寄せ集めたものではなく、ひとりの担当者が訳したものを他の者が修正、改良し、さらに全体の編集委員会で調整されて出来上がったものです。ですから、ある場合には最初の翻訳者が訳したものが大巾に変更されることだってありました。こうして聖書は個人訳ではなく、教会が世におくる神のメッセージとなつていくのです。

わたしは二書を翻訳しましたが、旧約のほとんどの書の修正、改良、文体の調整にも参加しました。

Q 個人ではなく、共同作業となると、その翻訳には最終的に個性が出ないのでしょうか。

A 翻訳者の個性がその訳文に出るようではないような不思議なものになっていきます。あまりに個人的な解釈や、聖書学的に最先端の研究によるものであっても、まだ学説でしかないものは控えられ、現在のカトリックとプロテスタント教会が受け入れられるような訳文になっていきます。しかし、もとの翻訳者の文の勢いとか格調とかいうものは、不思議と最後まで残っています。

Q 翻訳に従事されたのは何人ぐらいですか。

と用語のための訳語委員が従事しています。文字通り共同作業による共同訳になっていきます。

Q 期間はどのくらいかかりましたか。

A 共同訳実行委員会が発足したのは昭和四十五年でした。実際に翻訳作業が始まったのはその二年後で、そのときからわたしは参加してきました。昭和五十三年には新約聖書がまず完成しました。そして今年全聖書が完成したわけです。新約は二十七書、旧約は三十九書、旧約続編は十書と、聖書としても多くの書を含むので時間がかかってもしかたありません。

Q 一番苦労され、頭を悩ませられたのはどんな点でしたか。

A 色々苦労したことが思い出されますが、そのなかからひとつ選びますと、途中で翻訳方針を変更したということでしょう。始めは大衆向きの訳にしようということでした。原典を分かりやすく、日本の義務教育を受けたものなら、誰にでもわかるようにしようと思いましたが、すると各翻訳者が提出した訳文はバラバラで、かなり乱暴なものもありました。そこで引き締めた文体で格調高く、精神的に味わいのある訳文にするよう、編集過程でつとめなければなりません。これは全体を見直す大変な作業でした。しばしばトランプ修道院などにとじこもって共同作業をしました。

Q 用語の統一の話がありました。カトリックとプロテスタントの間で用語の非常に異なる点がありますか。

A 用語というより、固有名詞の「イエズス」と「イエス」の名の相違が一番大きな問題でした。カトリックは「イエズス」、プロテスタントは「イエス」と言っています。この

名で同一の人物を指しているのに、日本では別々の名がつけられるようになっていました。

Q 結局どうになりましたか。

A 結局「イエズス」になりました。一般に「イエズス」より「イエス」が広く用いられているので、カトリックは譲歩したわけです。今後、カトリックも、プロテスタントも同じく主を仰ぐおかたが、同じ名前を呼ばれるようになることを願っています。

英知大学の学生やご父兄に對  
アムトラック二泊三日の大陸横断

(九月四日〜九月二十五日)

英語英文学科教授 福 島 重 一



ローラス大学の所在地、アイオワ州ドゥビュクは、一八三三年にアイオワ最古の開拓地として発足、その

わすか六年後、一八三九年にローラス大学が設立されている。この頃、この地域はまだ准州で、州に昇格したのは一八四六年だから、わが姉妹校ローラスは、アイオワ州そのものより歴史が古い。

シカゴのおへア空港からバスで西に向かつて数時間、ミシシッピ川の対岸から見たドゥビュクの町は、森の中に開かれた由緒のある大学町といった印象で、テムズ河畔のオックスフォード大学、チャールズ河畔

し、特けしと言はありませんか。

A 聖書は西洋をはじめ、世界の多くの人の精神的な支柱になっている書です。その中には、それなりに大変貴重なことが書かれているはずで、そこで、キリスト教徒でないかたも、精神的ゆとりを作って、聖書をひもといていただきたいと思えます。これは充実した人生のために、手がかりになるのではないのでしょうか。その際、数ある聖書の中で新共同訳聖書を選んでほしいと思えます。

のハーバード大学、MIT、ボストン大学なども一脈通じるものを感じ、心が躍った。

ローラス大学に着き、荷物を降ろして落ち着く間もなく、三十五人の英知大学生は、それぞれのホームステイの親たちに引き取られて行った。グリフィン先生と私は、ウィティーン博士の自宅に案内され、そこでホームステイする四人の学生と一緒に夕食をごちそうになった。

祝日を含む三日間の週末の後、二週間の授業が始まった。月・水・金は三科目、火・木は二科目、いずれも午前八時から、アメリカらしく定刻に始まるのである。英知大学生の受ける授業は、どの科目も午前中に終わるので、午後には授業はなかったが、郊外観光、州内外観光ツアー、ミシシッピ河遊覧、テレビ番組でインタビューを受けたり、仲々多彩であった。

最後の土曜日に、大多数の英知大学生の自発的発案で、ホームステイ

のご家族の皆様に変お世話になったお礼に和食パーティーを開き、大好評であった。アメリカ産の材料を使った日本料理の味も結構上手にできていたので、随分沢山の料理を用意していたにもかかわらず、すっかり食べつくされ、残飯は皆無であった。企画実行した多数の英知大学生の心と腕前を賞識したい。

翌、日曜日の昼過ぎに、折からの時雨と別れの涙の中、多数の見送りを受けてバスでバリーントンの向かった。ここから二泊三日の汽車の旅が始まるのだ。飛行機では味わえないアメリカの風景をたんのうでできるアムトラックの旅であったが、二泊三日走りっぱなしのこの汽車の旅の評価は、意見の分かれるところであった。映画にもなったスタインベックの「怒りの葡萄」のように粗末な車で大大陸横断をやりとげた往事をしのべば、たかが二晩シャワーがないからとて苦情も言えまい。それにしても、飛行機なら三倍も安く、十倍も早くサンフランシスコに到着できるようにが……。

九月二十二日火曜の夕刻、サンフランシスコ・ホテルに着き、翌水曜日は各グループ毎に自由に市内観光。

二十四日木曜の朝、ホテルを出てバスで空港に向かい、正午過ぎに飛行機に乗り込み、太陽と共に太平洋を飛び続け、一度も太陽が西に沈まないまま、日付変更線で二十五日金曜となり夕刻、成田着。その三時間後に大阪空港に着いた。

総じて、アメリカに着いて最初のうちは、カルチャー・ショックで心に多少の障害を感じていた者も、人口十万人前後の町の典型的なアメリカ人の暖かい親切を受けて、次第に異文化の味を楽しみ始めていたようであった。

